



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 mm JAPAN

池田東離亭校正

葛飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志

六編  
全十冊

京潤畫林

額田鷗額堂  
岡田羣玉堂 梓

多  
國書

而人皆曰。多知社事事之  
中。今古猶。黑寫在。通之風  
志也。傳向。情之。方不。老孔明  
達。治方。變。山而。官。孫。孫。老。哥  
好。亨。而。為。義。而。將。此。好。方。九。

而之志。抑仰其故學。勺詒焉。  
嘗草紙。鵠率之友。元和之文。曰回  
憶其書。以及東學。好之。彥善之。  
先傳之玉志。是傳之決江河。一無  
疑矣。史傳為序之文。毋足名。  
顧後之君。切忌之矣。時以玄

夫言。以內字字之少。加以因之。此  
欲過似於過俗。而復重崇  
覆字也。僅賢父母。不以女直忽  
之。必使多子。常弄之左右。又庶  
為孝子。天保。序多秋日。

大口伊勢守藤原時善

李谷孫時善



南蠻王孟獲



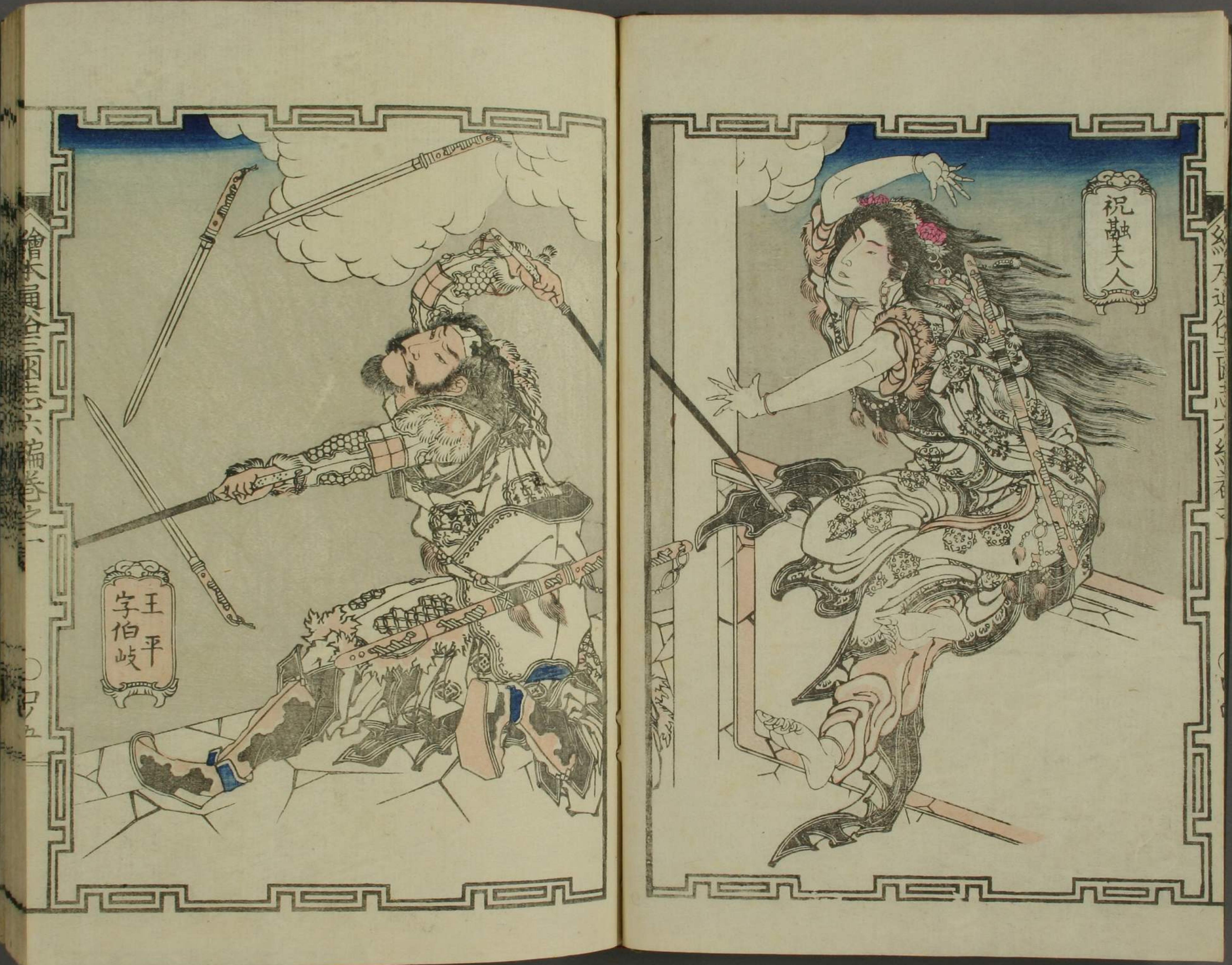
會大羅金仙圖卷之六

口上

張苞







繪本通俗三國志六編總目錄

卷之壹

范疆張達殺張飛

蜀帝與兵伐吳

趙咨入魏說曹丕

閔與張苞破吳兵

卷之二

蜀帝大戰猇亭

陸遜定計破蜀兵

蜀帝夜走白帝城

卷之三



司馬懿字仲達

魚腹浦八陣伏陸遜  
白帝城蜀帝託孤  
曹丕大與五路兵

卷之四

秦宓張溫大論天  
曹丕泛龍舟伐吳  
孔明與兵征南蠻

卷之五

孔明一擒孟獲  
孔明二擒孟獲  
孔明三擒孟獲

孔明四擒孟獲

卷之六

孔明五擒孟獲  
孔明六擒孟獲  
孔明七擒孟獲

卷之七

孔明秋夜祭瀘水

孔明初上出師表

趙雲大破魏兵

孔明智取三郡

卷之八

孔明計伏姜維  
孔明大破曹真  
孔明大破鐵車兵

卷之九

司馬仲達擒孟達  
仲達計取街亭  
孔明智退仲達

卷之十

孔明揮淚斬馬謖  
陸遜石亭破曹休  
孔明再上出師表

孔明二出祁山

總目錄終

繪本通俗三國志六篇卷之一

目錄

范疆張達殺張飛

蜀帝與兵伐吳

趙咨入魏說曹丕

關興張苞破吳兵

繪本通俗三國志六編卷之壹

范彊張達毅張飛

漢中王ヒサシマウとで、皇帝の位クラハを取ル。即タリて、次の日、文武の百官朝廷クラウジヤウに  
あらそりけり。帝ヒメイの詔シラフを降ハセし、宣アハシムく。朕チエン、堯園ヨウエン、義ギをむきん  
で。関羽カンウ、張飛ザンブイと生死の交タマツを誓アハシム。今、関羽カンウ不幸スミテ。吳オウの  
孫權ソング、害セキせられたり。天チムと天地チムチモトを共シテせざるの仇キミあり。朕チエンがま  
帝位ヒメイを即タクへ。お汝アタマが扶ハサムよる。若、關羽カンウが仇キミを報ハサムせざきを。  
おとこ昔日ソノヒテの盟エイを背カムく。朕チエンは、傾カク國コクの兵ヒンを起ハセし。吳オウを滅ハシムべ。そ  
と速ハヤ賊ゼイを擒ハサムす。關羽カンウが靈ルイを祭ハサム。その眼メガネをもぐらんと思マジ。あり。  
とて、趙雲テツモンを出ハセて曰ハシムく。無用ムヨウ々々。輕ハシム々々。異ハナフと討ハシムべうら  
を。宜ハシムくまづ。魏エイを討ハシムえ。魏エイ滅ハシムじよ。吳オウの手ハンドから服ハサム。ま

曹丕漢帝と弑<sup>おろ</sup>して神人とあらず怒る。陛下も渭水の河上  
と兵を屯<sup>とむ</sup>して魏の逆賊を討<sup>う</sup>て。関東の忠あるもの多く  
らを糧と食ふ馬々策打<sup>う</sup>て。王の師をもつてし。若魏を  
もと吳を討<sup>う</sup>て。兵勢一度交<sup>う</sup>て。あく解<sup>か</sup>ることを得べ  
んや。陛下よりて察<sup>う</sup>り。帝宣ひけろ。孫權朕<sup>が</sup>弟を殺<sup>す</sup>  
て。殊<sup>と</sup>々<sup>と</sup>糜芳博士仁潘璋馬忠などぐく吳の國<sup>くに</sup>あり。もま  
歯を切<sup>く</sup>るの仇<sup>かた</sup>。朕<sup>ち</sup>の肉を食ひ。その九族を滅<sup>ぼ</sup>さんとあら  
も。汝<sup>な</sup>るよとてあくとを阻<sup>さ</sup>る。趙雲又曰く。天下の重<sup>きわ</sup>き。仇を報<sup>む</sup>を  
へ軽<sup>い</sup>。陛下大きを詳<sup>う</sup>り。帝荅て宣く。朕<sup>わ</sup>は。關羽が讐<sup>むか</sup>  
を雪<sup>む</sup>ごん。八万里の江山をゆとも。あく貴<sup>き</sup>よ足<sup>たり</sup>。ノや。朕<sup>わ</sup>が立臺<sup>たて</sup>を  
決<sup>せ</sup>せり。汝再び諫<sup>いさ</sup>るとあられと。即時<sup>そくじ</sup>と。南蛮國へ勅使<sup>てきし</sup>を

みて夷の勢五万余騎を借り。又閨中へ勅使をとせ。張  
飛を車騎將軍領司隸校尉と。西鄉侯<sup>サムライ</sup>を封<sup>くわ</sup>。閨州の  
牧を善<sup>よ</sup>きせしる。とのとて。張飛は閨中を守<sup>つ</sup>て。關羽を要の  
為<sup>め</sup>を殺<sup>す</sup>され<sup>る</sup>由<sup>ゆ</sup>をきく。日夜哀<sup>かな</sup>しき。哭<sup>く</sup>して。淚衣を湿<sup>し</sup>。目  
を怒<sup>ら</sup>して。大<sup>き</sup>恨<sup>うら</sup>む手下の諸將酒をとらせて。ひてあざと  
んとまれ。張飛は醉<sup>ゑ</sup>とて。妄<sup>うつ</sup>怒<sup>いかり</sup>の氣を盛<sup>さか</sup>。士  
卒を痛<sup>いた</sup>く。鞭打<sup>う</sup>け<sup>う</sup>。死<sup>し</sup>するをのも多<sup>う</sup>り。常<sup>に</sup>醉て  
渭南を望<sup>む</sup>んで。歯を切り。怒り恨むるをとあざとく。醒<sup>め</sup>るとた  
金<sup>きん</sup>をとあつて。大<sup>き</sup>哭<sup>く</sup>。哀<sup>かな</sup>るて。堪<sup>たま</sup>が<sup>れ</sup>じ。とて。又勅使をと  
報<sup>ほう</sup>ド<sup>う</sup>り。もと張飛はとど上<sup>あ</sup>む久<sup>く</sup>詔<sup>めい</sup>を聞<sup>き</sup>て。あくとを読<sup>よ</sup>み  
詔<sup>めい</sup>を曰く

朕兼天序嗣奉洪業除殘靖亂未燭厥理今宥虜作  
害民被荼毒思漢之士延頸鶴望朕用粗然坐不  
安席食不甘味整軍詰誓將行天討以君忠毅猝從  
召虎名宣遐迩故特顯命高墉進爵兼司于京其  
叔將天威柔服以德伐叛以刑稱朕意焉特不至平匪  
疾匪轉王國來極聲敏戎功用鏘爾祉可不勉哉章

武元年五月日詔

張飛官爵を受て北を望て拜謝し。酒宴を設けて勅使を持  
て。は。よ。兄の仇重きと山嶽の如く朝廷乃臣あるべく奏聞  
て。早く吳の國を伐つやざるやと問けよ。使答て曰く。多魏  
を伐く。次々吳を伐り人と。さむひろきのあり。張飛怒て曰く。ま  
れらある言ぞ。昔一龜園。又義を結びしと誓て生死と同  
せんと約せり。今不幸又一て。関羽を亡ぼすと何  
ぞひとり富貴を身又受けしや。自天子又見ぐ。一番の先手  
を受孝をうけて呉を破り。逆賊を擒み。兄の靈前も祭  
べること。勅使と打連成都も来る。あのとた帝へ毎日教場  
より上御よりて。三行うち軍馬を調練し。ひ日て校へて軍  
を起さんと志す。又。又。又。文武の百官尽く丞相府もあ  
り。孔明又告て曰く。室天子初めて帝位も登り。もくら兵  
を起しき。社稷を重んじる所以。又あらざ。丞相もよきと云  
ふ。又。孔明が曰く。より已。又。再三強く諫む。共帝  
まくよきと。今日百官もとぐく。吾よまたぐく。教場も

なリ共ニ天子を諫め。又同ニ朝至て奏して曰く。古の祠ニ千金  
の子へ坐せる。天子は垂せざり。陸下九五の位を受。祖  
宗の統を傳す。徳をもて。人を服む。とあり。又。一時の  
怒より。自ら大軍を起し。山川の險阻を経て。矢石を冒  
す。の宗廟を重んず。又。若又。關羽が義をも  
い。仇を復せん。とある。又。一人の大將も。命と兵を統く  
伐し。帝をとぞやく。と。御心を回され。朕素そらく兵を  
止て。別々良計をあさん。宣へ不ふ忽ち。張飛きなまくを奏  
を。帝にとぎ召よせ。又。張飛。ごちよ。演武堂。ときと川と地と  
拜伏し。帝の御足を抱て。大哭。帝も。張飛が背をあで。士官  
せとあひて立。又。張飛が曰く。陛下のま天子とあり。早昔  
の誓言を忘ど。る。關羽が仇を。あよとて早く報ト。り。ざる帝  
宣。ひける。百官もあからず。諫む。人の多く。軽く。打起ぶ  
た。張飛が曰く。他人へ。あ富貴と樂む。あよと。十日。昔日の  
盟をきらんや。陛下も。打起り。がんば。臣一丈の身を。も。關  
羽が為。仇を報ト。若報。ざると。あたがんを。命と。とく再び  
陛下。見ひへド。帝宣。ひける。朕。あうぞ汝と。共ニ行人。張  
飛が曰く。昔日の誓天。ト。あと。あうぞ志。陛下うち。す人  
み笑ひ耻。あられ。帝宣。ひける。汝。ひとぎ手。下の勢を  
引く。而中。す。生。朕大軍を起して。江河。みて。生合。吳を滅  
し。恨。と。き。張飛が曰く。臣安。片時も。候らん。帝の  
なまひける。朕もと。汝が酒後。怒を。発。と。女。士卒を鞭

の誓言を忘ど。る。關羽が仇を。あよとて早く報ト。り。ざる帝  
宣。ひける。百官もあからず。諫む。人の多く。軽く。打起ぶ  
た。張飛が曰く。他人へ。あ富貴と樂む。あよと。十日。昔日の  
盟をきらんや。陛下も。打起り。がんば。臣一丈の身を。も。關  
羽が為。仇を報ト。若報。ざると。あたがんを。命と。とく再び  
陛下。見ひへド。帝宣。ひける。朕。あうぞ汝と。共ニ行人。張  
飛が曰く。昔日の誓天。ト。あと。あうぞ志。陛下うち。す人  
み笑ひ耻。あられ。帝宣。ひける。汝。ひとぎ手。下の勢を  
引く。而中。す。生。朕大軍を起して。江河。みて。生合。吳を滅  
し。恨。と。き。張飛が曰く。臣安。片時も。候らん。帝の  
なまひける。朕もと。汝が酒後。怒を。発。と。女。士卒を鞭

打てを志かと大ちる禍の端あり。今より後よしく慎め。張飛  
偕て下て謹んで拜謝し。又廻中へ回りける。次の日帝又兵を起  
てひけ玉。學士秦宓とミ出大々諫て曰く。陛下いま大軍を起  
じて弟の仇を報どり。臣おゆふもあひど不可あり。陛下方乗  
の身をとて。小ちる義をあらう。んづまれ古人の取ざる不へ  
殊。関羽を賢を輕んト。士々讐り。罰すて自高りて。その禍を  
ひき生せり。天の亡わせり。あらずや。願く。陛下よくおゆふとま  
帝宣ひける。関羽の朕と一体。あ。昔日の盟を忘るんや。秦  
宓又曰く。陛下諫えあたゞさんべ必ず大ちる敗わらん。但惜む  
べ新々創え。天ト。卒々他人の物とあらん。帝大々怒て  
宣ひける。朕兵を起して敵をもつて。汝ひうあり。不吉乃  
て入表を上り。諫て曰く。

臣亮ホ切以吳賊逞。鄭武之心致荆。及西復亡之禍。損將星  
於牛斗折天柱。干楚地。此情哀痛。將興問罪之師。廊廟  
同謀。悉起。發忿之議。皆以為遷。漢鼎。者罪由曹賊。隔  
劉祚者過非孫權。蓋謂魏賊若梟除。則吳寇自然賓服。  
願陛下納秦宓金石之言。抑。下。莊刺虎之勇。以。難士卒力。

別作良圖則社稷幸甚天下幸甚

帝大怒り表を地をあげて宣ひける。朕が意をでみ決せり。  
再び諫るを。劍をもて法を正さんとて卒。孔明を留太  
子を保て。兩川を守らし。驃騎將軍馬超。弟馬岱と鎮北  
將軍魏延と助けて共々漢中を守。一也虎威將軍趙雲へ  
後陣を下りて兵糧を送り。運。黄權程畿を參謀と。  
馬良陳震。文書を掌らし。黃忠と先鋒と。馮習張南と  
副将と。傅彤張翼と中軍護尉と。趙融廖淳と後備と。  
その外宗徒の大将校百人。并々五雜蠻夷。ホの兵都合七十五  
万。章武元年七月上旬。成都を立て進發した。張飛  
は箇中をせ回り。手下の勢を尽く。白旗とさを白袍をきせて。吳

と平げ。閔羽が仇を報ぜんとて已と目を定めて打起と手  
下の大将范疆。張達と。りよやの二人とも出てやせる。只今  
仰て被る。兵船武具。白旗白袍の類。容易に調ることあつた。  
た。さうして白限を延々。張飛怒て曰く。兄の仇を報ず  
る。今日の内にも敵の壠を到ざると恨む汝のままで。命  
を背ぞとて武士の命じ。二人を樹の上に縛付て背と  
四十杖打せ。若明日又尽く。調そんべ。必そんべ。二人が首を刎ぐよ  
け。今日浩る責を受とり。どもいふ。しく明日の内に調へん。  
元來あの人。烈きと火のどくある。明日調へ。もんばうを  
え。殺す。張達曰く。かく。我を殺さる。また。我

又。彼。役。を。殺。と。し。范。疆。白。く。い。々。前。又。近。付。人。張。達。  
が。白。く。運。へ。天。又。あ。り。と。も。と。ホ。り。運。尽。を。彼。役。を。と。わ。な。  
ド。か。何。も。酒。と。醉。く。床。の。上。また。と。休。を。今。夜。酒。  
飲。べ。と。ホ。が。運。の。尽。ど。不。あ。う。と。て。密。と。あ。と。と。向。ひ。ま。う。き。  
夜。張。飛。神。思。昏。乱。と。坐。卧。安。ら。ざ。り。と。手。下。大。將。  
と。向。て。曰。く。と。今。志。き。り。よ。ん。あ。ざ。ろ。き。肉。動。く。い。あ。る。故。で。諸。將。  
答。て。曰。く。あれ。君。の。閔。公。と。わ。か。ひ。ま。よ。め。あ。り。張。飛。と。あ。ち。諸。將。  
と。酒。と。飲。ふ。だ。ん。を。醉。く。帳。中。又。卧。け。と。范。疆。張。達。ひ。づ。  
と。喜。び。と。あ。懷。と。劍。と。藏。し。初。更。の。比。内。又。入。り。俄。と。軍。の。  
大。事。あ。り。と。訴。く。直。と。床。の。前。又。到。る。と。た。と。張。飛。と。宿。入。く。  
軒。の。音。雷。の。と。く。あ。り。け。と。び。一。人。卒。と。の。首。と。射。落。し。板。  
十。人。を。引。て。舟。と。の。り。吳。の。圓。へ。走。り。る。張。飛。死。さ。る。と。五。  
十五。歳。あ。り。軍。中。あ。り。と。と。き。つ。け。兵。と。起。て。追。蒐。と。ど。も。  
及。び。を。と。回。り。け。と。ば。手。下。の。大。將。吳。班。い。と。き。表。と。上。げ。て。  
天。子。と。奏。と。長。子。張。苞。と。棺。槨。を。具。と。せ。弟。張。紹。と。圓。中。  
と。守。ら。じ。

蜀。帝。興。兵。伐。吳。

章。武。元。年。七。月。丙。寅。の。日。帝。七。十。五。万。の。勢。と。禦。へ。吳。と。攻。と。  
て。已。と。成。都。と。生。り。人。と。孔。明。と。小。の。百。官。と。從。へ。十。里。送。り。て。飯。  
け。り。と。の。夜。帝。俄。と。御。心。と。ど。ろ。き。肉。動。き。け。と。と。生。て。天。丈。と。  
觀。と。と。西。北。の。方。と。一。山。の。星。あ。り。大。さ。斗。の。と。く。と。と。忽。ち。地。  
と。落。け。と。と。御。心。疑。い。い。ぞ。き。人。を。走。ら。し。と。孔。明。と。向。と。



孔明奏曰。先主一人の大將を失つた。三日の内、嘆驚あらう  
とやむとべ。帝ありとよりて暫陣を張り進み。時々近  
臣奏曰。園中の張飛が大將。又吳班とのよきの早馬をせ  
く表を上ると告げとべ。帝あへて敬驚き。手足措所を失ふて噫  
え。弟喪びとろりとて表を披てり。又。張飛酒を  
もだ。痛く寐入らる石也。范疆張達二人ひきゆ首を討  
て。吳は降まくと書とり。帝色を放いて哀しき。遙々望  
く。覓て祭りゆ。次の日一彪の軍馬飛びどく馳来り。と  
奏り。帝自ら出で。先主を一人の大將白き袍  
を着て地の上より拜伏し。謁んと見え。張飛嫡子張  
苞も。帝大哭き。群臣もあ竦く曰く。陛下今

大軍を起して。吳の國を討ふと志す。又は痛く哭ひ。自  
ら龍體を損ひゆ。帝張苞もひて宣ひける。汝吳班  
と先手よまくんで父の仇を報を全きや。張苞曰く。父のた  
る君のとち死せどりども。とうぞ辞せん。帝もあら。張苞を  
先手にさす。近臣又奏して曰く。一手の軍馬風擁してせ  
きたり。帝あきとこゝれを。關羽が次男關興あり。あたゞ。帝宣  
ひける。朕昔布衣の中。關羽。張飛と生死の交をむ  
きび。今朕へ太子とありて。二人の弟へ不幸よりて早く死れた  
り。今又二人の姪と云ふ。ひとゆ鉄石のじ。安んじ哭を

らんとて吉を放いて長嘆し。昏絶してよりと極度に及び  
りて百官もあ。張苞閔興もひうて。二將軍もちく退て帝  
の龍体を類へらす人といふ。二人退ひて坐けよべ近臣奏  
して曰く。陛下御年六旬もとだて。日夜もとぞ憂ひて恐ら  
く。龍体を損きし。帝宣ひけよ。二入の弟もとぞ亡びく。  
朕ひとり世もあつまると。昔日の約。背ちうとて頭をもとて地を  
たき。吉をとあるて哭きし。百官もとぞ見て。義しける。  
今主上もとぞて。帝位も即き。自ら七十余方の大軍をあ  
まゝて。遠く吳の國を伐り。殊も日夜哭き哀みゆへく。  
その兆不吉へいきりと解き。陳震が曰く。成都  
の青城山も李意とりゆる。隱者あり。また人々漢の文帝の時  
より。陳震はよくうきよあひと眞の神仙もとて。

廬の外ニ拜伏さむきよ。けとべ李意りいひそく内ニ入らし。陳震ちんしんが白く天子てんしいそぎ仙翁せんおうニ見せんと。をねがひす。望らしく駕こと促すすして坐すわり。李意りいが曰く。莫もと一年老く山を坐すわるとあたへど。陳震ちんしんが曰く。や仙翁坐すわり。をねが其そのまゝと空からしく回らん。李意りい已まとぞ得えを再三さいさん及および從つづひれ。ば陳震ちんしんまゝ使つかせぐ。その趣おもてを報わらわす帝ていを引ひく。百官ひゃくかんを引ひく。五六里をうなぎて。五六里をうなぎて。身古相みこあいのとくあうけと。營中えいちゆうニ請うけじて礼れいをあそひ。李意りいが曰く。老夫ろうふはとある。山中の賤人せんじん無学むがく。よしと識しとあ。し。又またより招まわきよ。帝てい宣あらわひける。朕ちん。羽は張ぱ飛ひと生死死生の交こうをもとんで。共とも。戎馬えいばの間まニ奔走はんそうをと。三十年さんじゅうねんをあれ。

り。謀ぼくと。あ。朕ちんが中山靖王ちうしんせいかうの後のちある。そりて。卒そつニ推おて帝位ていわい。即つゞく。今二人ふたにんの弟おとこを。害がせられ。讐言しゆごん。と。吳おの國くに。あり。たのゆ。大軍だいぐんを起おそ。吳おを攻せくとも。仙翁せんおう願ねが。ハ吉凶ききゆうを決きり。木子意きこいが曰いく。あと天數あまのう。老夫ろうふがき。不ふよあらす。帝てい。再三さいさん。問たずなまへ。李意りいもあ。紙筆しごくをも。もや。兵馬武具へいばぶぐの類るい。四千余張よせんよしよを画かく。手てにて。弓ゆみや。矢や。り。又また。の。大お。あ。人形じんぎやうを画かく。地ぢの上うニ仰あおのけ。卧よたる。と。矣や。人土じんどを堀ほり。埋うめ。と。も。体からだを寫うが。と。上うニ。一いつの。白しらの字じを書か。拜さむき。別べつして。回まわり。けとべ。帝ていの内うち喜よび。と。を。大お。狂人きょうじん。あくべ。用もち。足あし。人ひとと。火ひと。も。焼や。き。と。元もと。と。張ぱ。苞いも。奏さう。と。曰いく。吳班ごくはんが勢ぜいを。も。來き。と。臣しん。

が。やを先手と。よん帝との志と壯人ありと。先鋒の印  
を渡さと。又一人とも生て曰く。先鋒の印。某々授  
け。彼仇を報きの。あ。某々仇を報きの。あ。  
諸々全と。されば。関羽が次男。関興。地上。拜伏。涙  
とあがへと。やう。臣が父を。吳の為。害せられ。臣ゆ  
ぐく。無用の身を。捨て。上の父兄の仇を。報。下へ自己の耻  
と。雪。ゆ。ゆ。先鋒の印を。授け。張苞。やける。父の  
仇。吳の國。ゆ。ある。もの。人。ゆ。已。先鋒の印を。被。關  
興。ゆ。ゆ。沒。い。能。あ。の職を。受。と。も。張苞。ゆ。  
ゆ。幼。少。す。武藝を。学。び。箭。む。あ。一。發。い。と。ほ。帝。宣。へ  
け。朕。ゆ。ぐ。二。人の。武藝を。あ。る。み。張苞。を。あ。ち。百  
け。朕。ゆ。ぐ。二。人の。武藝を。あ。る。み。張苞。を。あ。ち。百

歩の外。一面の旗。立旗の上。紅の駕。弓。取て。三度  
放。ゆ。と。あ。驗。中。り。け。り。と。諸軍。尽く。敬。驚。嘆。と。關興。も。弓。と  
取て。進。土。御。邊。弓。勢。あ。ん。ぞ。奇。と。も。足。く。と。ひ。け。る。ふ  
よ。忽。ち。一。行。の。雁。雲。の。間。を。と。と。だ。け。と。我。お。の。第。三。の。雁。を。射.  
落。ま。ん。と。と。身。と。半。月。の。ど。く。反。せ。引。詰。て。兵。と。放。り。と  
雁。弦。音。と。應。と。て。落。け。り。又。武。の。百。官。あ。射。と。や。く。と  
感。ト。け。り。と。張。苞。大。怒。り。馬。と。乘。丈。八。の。矛。と。提。げ。汝  
と。と。戰。と。決。せ。ん。や。と。呼。り。け。り。と。關興。も。馬。と。打。乘。刀。と  
て。て。う。け。上。汝。と。矛。と。使。ば。と。又。刀。と。使。べ。ー。と。り。よ。刀。鎌  
と。交。へ。と。ち。う。と。帝。叱。り。て。無。礼。き。る。あ。と。よ。を。へ。り。う。と。べ。二。人  
馬。と。下。の。地。と。伏。と。帝。宣。ひ。け。る。へ。朕。承。君。よ。汝。二。入。交

と生死の交を結んで。骨肉どうもあは親なり。今汝二人を  
あは昆仲の分あり。父が昔の義義をもひ。吉凶どりも救ひ  
扶ひて。その親情又背とあつれ。ちゞ一言の忿心。同士軍を  
仕出しつゝ。の大義を失へる。父の喪いまど遠くうざる。尚  
此のどく相争ふ。况や他日せや。汝二人の内年長ぜり。兄と定よ。  
張苞白く。臣ハ閔興す。一歳長ぜり。帝をあは閔興の命ト  
て。張苞を再拜せさせ。箭を折て誓言をも。承く兄弟の約  
をあさへらむ。吳班をもとより先鋒とり。朕も自ら汝二人の後陣  
を備へと。おのづ精兵三千余騎を授け。水陸二手を分て。  
その勢ひ。潮の湧ぐとく。吳の団々むろひよ。

趙咨入魏說曹丕

范疆張達二人張飛が首を取て。吳々降り。事の様を告げぬ。  
孫權大々をぞろき。文武の大將をあらわすや。今劉玄  
徳をもと帝位を登り。七十余万の精兵を率へ。そのあへよ  
せ来る。その勢ひ泰山のとて。いきして拒ぐま。諸葛瑾  
もまひ。互ひは面や。しん合せて。答るやのあうけれど。諸葛瑾  
が曰く。某久々君の恩を受。死んでから一命を棄て。蜀主を見  
へ利害と説て。兩廻を和睦せしめ。共々魏を伐て。天下を正さ  
しめん。孫權志とて。と喜びけり。諸葛瑾卒。出む。  
とたみ章武元年秋八月。帝大軍を進て。褒閔夷へと。御駕  
を白帝城へ止て。先手の勢をもと川口へ坐るとある。近臣奏  
て曰く。吳の団々。諸葛瑾使とり。帝大々怒りて。いき追

へせと宣へば黃權諫ちて曰く。諸葛瑾へ孔明が兄あり。あ  
の人に追回する人ある。が、招き入きて。その従でさうへ去こぐ。従  
えトモコト。従へき。乃ち孫權が罪を責て。そののと知り。故  
帝を志とす。呼入きて對面し。諸葛瑾地上に拜  
休む。帝宣ひける。汝も來るべ。心ぞるの故あらん。諸葛  
瑾が白く。臣が弟久々。陛下の事。おのと。斧鉄の隸を避  
き。特々來りて。荆刃のとを奏す。近比。關羽。荆刃を守り  
ゆ。主人孫權。幸りと好をむと。がれども。關羽  
さう従へり。却て呂蒙と不和よりて。動をひく。關羽  
罵り。主君へらる。よし。主人孫權。怨を積の一にあ。其  
後。關羽。襄陽を取り。曹操を。漢の天子の勅

命と号して。使たりて。主人孫權。荆刃をふり。取つむ。  
れども。の詎あらんと。疑く。孫權卒。従へざる。よ。呂  
蒙ひそよ兵を起して。主人すもあらせを。卒。荆刃を攻  
取とり。主人孫權。呂蒙が關羽を殺したる由をきく。後  
悔をとども及ぼ。とよとあら。呂蒙が咎。アリて。主人孫  
權の志る。あら。今呂蒙。世を辞して。仇を。ごめ。亡孫  
夫人。又久しく。陛下を慕て。常々對面せ。とぞ望む。金の  
へ。主人。ま某を。使。荆刃を初のとく返し。降泰ア。者  
と生取く。献り。孫夫人を送り。回して。長く。唐。漢の好を。じ  
び。共々。曹丕を。伐く。篡逆の罪を。正さんとも。が。未審尊  
意いろん。帝怒りて。宣ひける。孫權。ちで。關羽を害して。

朕が股肱を廢す。今日又言を巧みにして來說ぐとす。諸葛瑾が白く臣妹が死んだ。輕重大小とりにて。ありて論せん。陛下がわざあやう漢室の皇叔。いま漢の天子。もとてよ曹丕を殺さう。陛下まの仇を討て。篡逆の罪を正さむ。ひし合は羽一人の為。自ら大軍を起して山川の難所を涉りきたて。雌雄を決して。また一大義を捨て。小義を就へ中原へとあち海内の地洛陽長安へと大漢業を創るの都へ。陛下あまこと取ることあり。ひそえ荆刃をあらそひふ。あと重く棄て。軽きを取らう。天トある陛下の位。即ちひねれ。あまうを漢室の再び與らんことを思ふ。志うる二人の大將の為。萬乘の御身を軽くす。また計を失るよわらぎる願

陛下あまこと察へ。帝によく怒て宣ひけろへ。もが弟を殺せるの仇。天地日月と共にせぞ。朕命令のあらんうぎりへ誓て兵を退けド。孔明がみりと思ひ。今まが汝が首を刎へだれた。まぢく預置をせ回りて。孫權。頸をもじめて力を受きたゝゆ。朕もうらぎり。吳の國を踏破りて。力分が一の恨みを雪がん。諸葛瑾。ゆの叶ざるてまことに震ひ。怕と頭を抱て回り去る。まのとた。吳の國を張昭ひそく。孫權。見へて曰く。諸葛瑾久々回らざる蜀の大軍を怕として和睦の使よりて。托直。又降泰ーたるみてひそく。孫權が白く。よと諸葛瑾と死生不易の盟あり。よと孤み負を。よと彼み負を。昔一諸葛瑾が紫朞をあらへとき。孔明江を渡て吳を来とり。孤をあら

諸葛瑾又ひうて。汝と孔明との骨肉を分とする兄弟す。ちひやまのあよ止ざるといひけりと。諸葛瑾答て。孔明とぞ。又玄徳より事と義更ニ心ほし。あらわさとゆ畠らに。ま戦某が他又行さるがで、とり入り。もの一言神明と貫く足り。今日争う蜀又降らん。と彼との交へ。他人の言せりて。問へきみめらば。その言ふまことざり。諸葛瑾回りぬと報ト。けり。張昭もひど愧て退坐。諸葛瑾内へひまやせども蜀帝和睦をもといひけり。孫權大よびろき色と失ふて。ト。けり。然どもへ國まきよ危。とたゞ一人をも生て。曰く某の計あり。その危きと救へ。諸葛瑾とぞよられ。中太夫趙咨あり。孫權問て曰く。汝はうす計うある。趙咨が

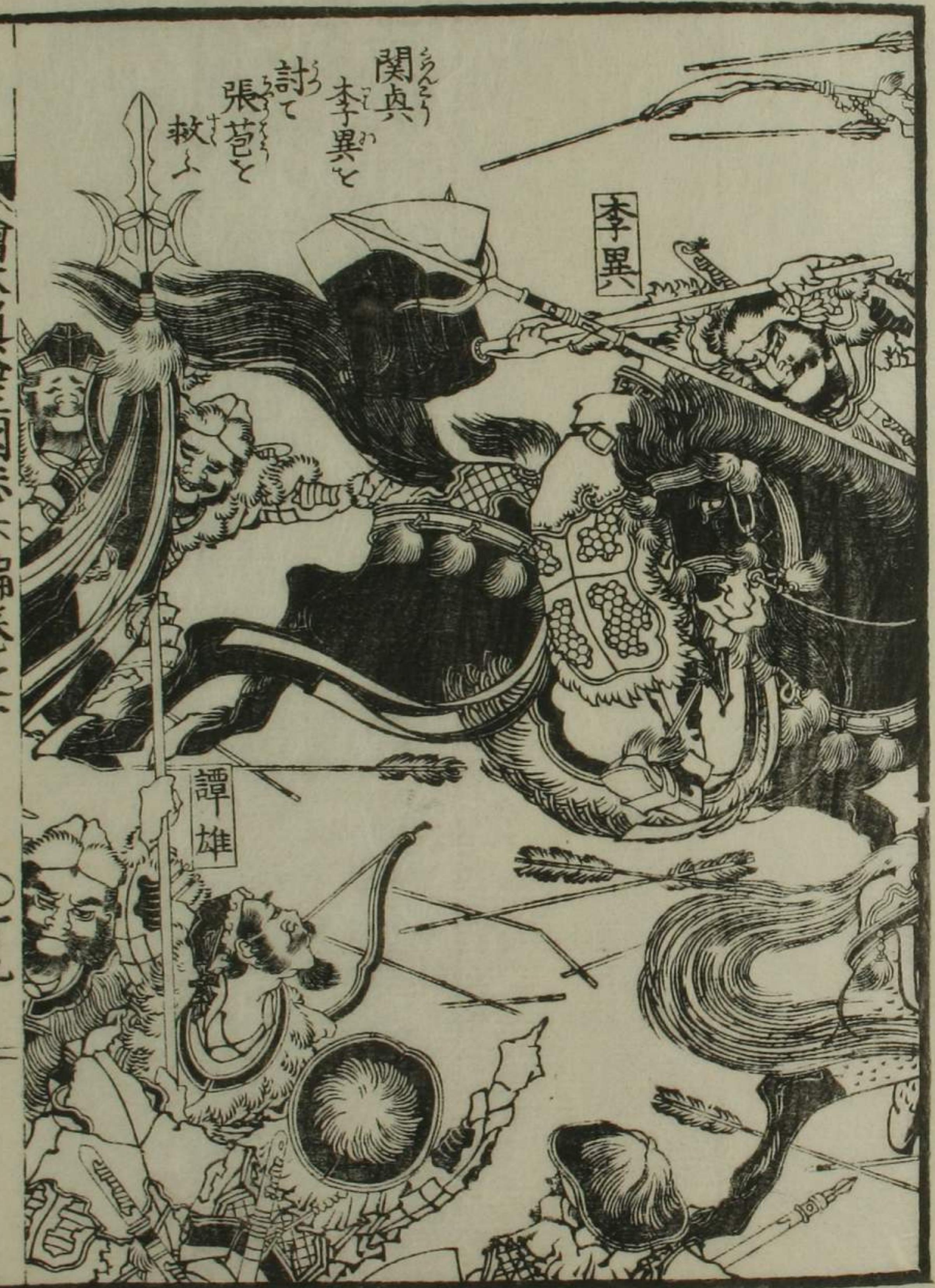
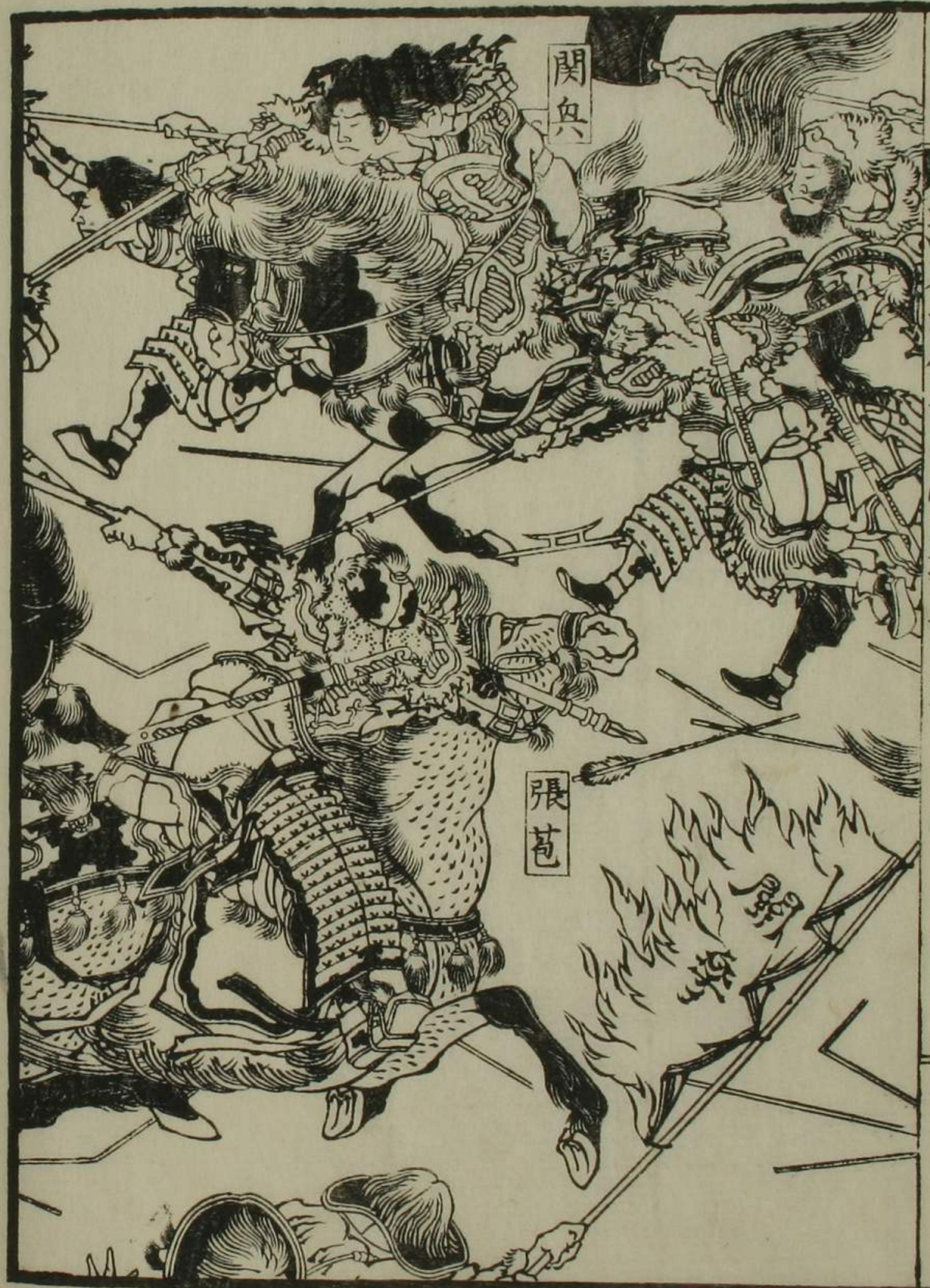
曰く君へき。魏の曹丕。表を上て救て求や。某の使とありて。許都。到り。利害を説て。曹丕。漢中を襲ひ。志りとて。蜀の劫かねの。ひくら退く。孫權よろあくで曰く。是計まひて善汝り。行。巴吳の國の威風を失ふとあられ。趙咨が曰く。ゆきとこして。威勢や落をとわべ。江中よ身を投ふ。何の面目ありて。生て回らん。孫權すあら表を作て。臣と称。手禁を送り。趙咨と使とし。趙咨すあら。魏の都。到り。また大尉賈詡。見て。そのゆきを語る。ほぎの日。賈詡。朝まで。吳の団す。中太夫趙咨と。の。勢力乃とさげて。使とり。報じけれ。曹丕笑て。曰く。あと罵の表をさう。而れて。機を求らん。とやあうと。よびへて。對面。表

と抜きて向て曰く。汝が主人孫權へ何人ぞ。趙咨まで曰く。乃ち聰明仁智雄畧の主たり。曹丕大笑ひけり。趙咨曰く。陛下あよから笑ひ。曹丕曰く。朕汝が主人を贊むるに甚ざき。趙咨曰く。陛下某が言のをきたる。某が言ふ事。聞りへん。曹丕曰く。改め言ひ。理合ひ。朕その願促。赵咨曰く。魯肅と凡人の内より拔へん。ありともの聰。呂蒙を士卒の列より抜たる。ありともの明。千林を獲て害せざる。是其仁。荆歎を取く。力と血を付ざる。まれてその智。三江を據て。天トセ虎視。豈とある雄。身を屈めて。魏をなぐ。ありともの略あり。あれよりて論をもと。豈聰明

仁智雄畧の主。あらぢや曹丕。曰く。孫權も学問八分。趙咨が曰く。主人兵船數万艘。江又深。精兵を集め。百余万。はるか賢。又任ト能。而使く。志氣経畧を存。ても暇ある。と。經傳。博覧。歷代の史籍。評。を。豫。手。米。奇異の人。あり。又。章。尋。徳。句。摘。の。謀。生。效。へん。や。曹丕曰く。朕。ま。吳。を。伐。ん。と。ち。の。ど。く。如何。趙咨が曰く。大國征伐の兵。あ。小。圍。も。亦。守。禦。の。備。あり。伐。り。とも。す。ん。ぞ。あ。そ。且。し。曹丕。曰く。吳。人は。ひ。魏。を。畏。り。趙咨が曰く。精兵百。江漢。を。祀。よ。き。あ。い。る。魏。を。畏。え。き。曹丕。曰く。吳。の。國。汝。が。と。き。よ。程。が。あ。り。趙咨が曰く。聰明特達。乃。よ。八九十人。某。が。と。き。よ。の。車。を。載。斗。量。と。も。數。に。曹

不嘆じて曰く。使于四方不辱君命可謂士とひる。汝がりと  
とも。をあらう孫權を要王と封ド。九錫を加え。太常卿邢真を  
使し。趙咨と共に呉と行リ。趙咨恩と謝して退坐され  
ベ劉曄。もと生曹丕と兼せて曰く。今孫權蜀の勢の寄る  
べく。劉曄。もと臣と称して。又。國の祚。臣が愚意をりて  
思ふ。今吳と蜀と戦へ乃ち天す滅。そく陛下は大將  
を。攻撃する。内を攻べ。呉の國の七びんと十日の外。至べ  
らを。吳は亡ふと。蜀は存せしや。願うへ陛下よ  
り。察り。曹丕が曰く。孫權を。禮をりて。朕は服を。  
朕より。おとせ攻べ。信を。天ト失へ。况や初て帝位よ登

素うく。詣の計を用は。劉曄が曰く。孫權英雄の才あり  
といふ。身も。漢を封せられ。驃騎將軍南昌侯の職あり。官輕きとて。勢い微ち。呉の民よりく。  
魏を怕る。今王位よ進り。とて。陛下と一階を高る  
を。つり。祿秩衣冠など。相乱らん。今陛下。詔の使を信  
じて。王位を。封。九錫を。加す。全と虎翼を添す。孫權  
は。兵を。退け。外と。陛下と順の礼を。内と。誠の  
も。も。漸々怠る。ものと。陛下怒。兵を起す。  
封り。孫權。江南の民を。觸く。もと。礼を尽す。  
魏事へ。臣たるの道を失ひ。今故を。攻來る。あと。心  
む。江南の人民を。擒す。美き女を。取く。婢妾を。金銀



ぞ掠取くわくしらへ為ためすと云人志しうと云へ。吳の民みんよどよ信しんすりととて  
力を尽つくして戦たたかひ。威風常つねありも十倍せん。今陛下時ときよりて。  
平げり。ひざんべ後のちよりある悔なまあらん。曹不さうふが曰いく。いやとよ朕お  
吳おをも助けたす。蜀しょくをもなきつけき。正統せいとうより居ゐて安やすまこと泰山さんざん  
ぞく。吳おと蜀しょくと力ぢを尽つくして戦たたかひ。ほ一國いつくにセひ。一國いつくにハ大おほき疲つか  
し。朕おの虚きよに乗のて。あひを滅めおさへ事ことをもとと決けせり。汝なお石いし  
諫いさなむることあつれととて。卒そつよとの諫いさなを用もちひだり。劉曄りゅうじ慙愧ざんくい  
くわいて退しりぞきけり。去程よきよ魏ゑいの太常卿たいじょうけい邢さう貞じやうへ趙咨せうそくと共とも。其そのの  
國くにより。ままげ人ひとを遣しし。勅使てきしを兼まつめめて。あまえ来きり。アフリとと云  
けきも。孫權そんくわん。びくら遠とお出でて。ひ入いりんとそ。顧雍くいくわん諫いさなを。曰い君きみを  
で。又江東こうとうの國くにを保ほり。あよ他ほか人の官爵くわんを受うけり。ひや。孫權そんくわんが

曰いく。昔むか一漢かんの高祖こうそハ項羽こうぐうが封くわを受うけそ。漢かん中の王おうととあつり。あ  
時とき、國くにををののちの。ひひとと耻はず。百官ひゃくかんを引ひいて城じゆを生う造つ。そ  
ととむくくけ。刑けい負ふををがく。上じやう國こくの勅使てきしををとと。あまて車くるま  
下くだをを傍そば若無わかずか人ひとたと。休やすままて入いけ。張昭さうしょう怒いりて前まへ進すす。そ  
詰づや励はげす。曰いく。汝な上じやう國こくの使しををとと。ヒ安あん。又また小こら無む礼れい  
れい。あまき。吳おの國くに。智勇ちゆうの人ひとあまととあます。又また吳おの國くに。劍けんあ  
あととあまる。邢さう貞じやう。怕ひれ。あまう。燒やて車くるま。飛と下くだけ。勿む急きゆ  
きゆ。一人ひとり大おほき哭こゑ。又またホほ身みを捨す命めいを抱い。口くち惜さよく呼よ。呼よふ  
ふ。君きみ。他人ほかの官爵くわんをを受うけ。ひひる。この口くち惜さよく呼よふ。呼よふ。勿む急きゆ  
きゆ。あり。邢さう貞じやう。聞きて感嘆かんたん。吳お。斯うる忠義ちゆうぎ乃の  
勇士ゆうし。又また人の下くだ。在い。ののあまらまといよ。哭こゑ。

と誰ぞと同びとあらず偏將軍徐盛なり。孫權たゞぞ、魏の封爵を受け、文武の詔將たゞぐく持賀す。孫權をあら珠玉犀角玳瑁翡翠孔雀鵝鳴雞山雉などの物をあら曹丕またてまつりて恩心を謝しけり。張昭諫て曰く。この礼物もあら過たり。孫權笑て。人のふへ怒ふ龜とある利をもて結びて。今この礼物は石瓦也。あら惜ひ足りてひしけりべ諾へ尽く嘆伏す。

### 閔興張苞破吳兵

たのとて蜀の大軍白帝城より半月をもて入馬を息りけろるも。吳の孫權救の兵を舞ふ求むとひどくも曹丕あらて兵を發せど。たゞ吳王又封ドたるをめりありと告るゝもの有

けよバ帝大喜び兵を下知して打起ゆふ。南蛮王沙摩柯といふも夷の勢。松万騎を引てそせ來り洞溪大將杜路劉寧二人二千の兵を引てかりけよ。水陸とひよ進ぐ威風遠近を震動し。舟手の勢がへ亟口まで至陸地の勢へ移取まで坐とり。吳の孫權へ王位へ登りて。魏の救きたらざり。文武をあらめて計を同よ。一人も言ひ坐をとのあつ。一々長嘆してやうけろ。周瑜魯肅呂蒙相続て。ヨリ扶けし。今一人もよきと憂を共みをくる。とば年若き大將一人とも生て曰く主上兵を千日あひと兼ひ。一日の用ふ備へぐ為へ諸將士舌をむきび口を開て一言とも告きぬ。ヨリへうき道理也。臣年幼少とやせども常々兵書を学へ

り。ほゞやうと。校刀の勢を引て。蜀の仇を退けん。臣が手下。季異。  
謝旌と。力夫不當の大將二人あり。あるもと。玄德を擒みて。  
囲の災を除べ。諸人もとぞえとへ。武衛都尉孫權字へ叔  
武と。たゞ年二十五歳ちう。孫權が曰く。よぶ姪まで。勇もと  
とり。いもいふせん年をあひど少く。必ず一人の大將を副て。共  
ニ力を助へらん。と。凡て二人をもと出で。曰く。某孫がくち。孫將軍  
と。共ひ蜀の兵を退治せん。諸人もとぞえとへ。丹陽故彰の人々  
虎威將軍朱然字へ義封ちう。孫權志を。今ノ喜び水陸  
の勢五万を。さげけ。孫權を左都督。朱然を右都督。  
封す。蜀の勢を。ま。宜都まで攻入ひとりと。告げも。朱然先  
二万五千余騎を率へて。宜都の界。又陣を取。三手。又分れ  
て

敵を待。とのとき。蜀の先陣吳班大軍を引て。真先。又進。又已。又  
川口を。坐て。す。到る風を。望んで。敗降し。又。血を。塗る。そ。  
宜都の界を。攻入。との勢。洋と。遠近震ひ。怡しけり。  
と。たゞ吳の大將孫權。兵を。引て。打歩うちと。報づけ。と。吳班ま  
が。使を。り。而て。馮習。張南。を告ぐ。その由を。帝。又奏。せじ。とのど  
帝の御駕。を。と。又。称。跋。を。來りける。が。太の往進を。聞て。太。怒  
り。孫權。あ。よ。の。あ。よ。べ。お。へ。て。朕。が。軍。を。あ。よ。ら。ん。と。ひ。も。朕。自  
ら。打破らん。と。宣へ。を。閔興。奏。して。曰く。ち。よ。の。敵。へ。臣。よ  
命。と。て。射。り。や。す。帝。宣。ひ。け。る。汝。行。て。太の敵。を。擒。や。き  
た。と。朕。放。が。壯。氣。を。視。ん。閔興。拜。して。坐。け。よ。と。張。苞。奏。ト  
て。曰く。閔興。を。と。敵。を。む。と。臣。移。ひ。と。行。て。助。ん。帝。宣。ひ

ける。汝相助りんと願ふこそ。神妙う。いてぎ打向く力。あ  
せ必を。ゆそ輕んをうとあう。張苞大。喜び。閔興と共す。  
先手よ。大軍。山々。漫り野を。敵ひ陣勢を。張て。鼓角乃  
天。地を。動か。孫桓大。そえて。兵を引て。おて止。李異。謝旌  
を。左右。みそる人。自ら馬を。旗の下。みあらせけ。蜀の陣より。  
張苞。予を。まよ。閔興。刀を。提げて。馬を。坐す。孫桓元夫。只今  
切る。えき頭を。あ。又。え。天兵を。拒む。と。も。天兵を。織  
り。孫桓。邑を。あげて。やけ。へ量。み。汝が主。へ。履を。取席を。織  
たる。小兒。ち。汝が父。い。と。頭も。あ。鬼と。あれり。る。よ。人  
よ。あ。え。命を。失。が。と。も。張苞。怒り。予を。まよ。く。蒐り。け  
れ。孫桓。行く。出ん。と。も。後。す。謝旌。馬を。そぞ。と。かけ

生。あれ程の敵。あんぞ。君。と。勞せ。と。ゆき。臣。が。生。取。と。ゆ。と  
ひ。て。張苞。と。三十。余。合。戦。ひ。ける。卒。み。叶。を。と。く。巡回。  
張苞。き。う。追。う。け。ち。れ。べ。吳。の。陣。より。李異。又。馬。を。り。け。出。  
大。ち。う。父。斧。を。ま。ぐ。く。又。張苞。と。二。十。余。合。戦。ひ。い。ま。と。勝。負。と  
分。ぎ。る。あ。又。吳。の。陣。より。禪。雄。と。り。へ。る。大。將。弓。を。引。て。丁。と。射。る。  
よ。矢。乘。な。ち。馬。の。胸。を。射。洞。一。け。と。倒。み。と。と。て。張苞。地  
上。み。落。け。る。あ。と。李異。父。を。り。て。張苞。が。真。甲。を。ま。け。二。つ  
み。破。ん。と。ち。る。と。後。す。閔。興。刀。を。ま。ぐ。と。て。そ。せ。来。り。李異。が  
首。を。討。落。と。て。張苞。を。も。く。ひ。回。る。孫桓。大。も。そ。ん。と。大。と。怒。り。  
次。の。日。兵。を。推。く。真。先。み。生。け。と。ば。張苞。閔。興。馬。を。双。て。陣。前  
み。ま。ひ。孫桓。力。を。揮。く。馬。を。ま。と。人。閔。興。と。三。十。余。合。な。と。

いまど勝負を分たざりければ張苞示てまゝて突てりる。  
孫桓叶下とやあひけん馬を打て走りけり。関興張苞  
逃さトと追う。蜀の先陣馮習張南も大軍を駆て大々  
とく。張苞勇て振る。真元もととみげる。吳の大將謝旌  
出あへ弟をまへて駆より下さ一殺。吳の勢力はくちく  
四角八方へ逃走りけり。蜀の軍勢十分又討勝て戦ひを收  
ける。関興一人そんざり一ぶ張苞もしきふ弟。し失  
ちあらばも命も存一ぐじとて。又馬を打乘。二三重をやり  
生て尋る。忽ち關興左の手に刀を提げ右の手に敵の大  
将と生取きたる。張苞それへあえやのぞと問へ。關興笑ひて  
曰く。よきあたへぬ進で戦ひける。昨日御迎が馬を射

り。呉の大將譚雄も生合追掛て生取きたる。張苞  
ぎうちく喜び。とゆふ本陣に向く。譚雄が首を刎血をまぶ  
りて死いたる。馬の元を祭り。表を立て天子を奏して孫  
桓へ叔度の戦又打負たのを切たら。三人の大將を討れ力  
尽、撃ひ死んで敵を拒ぐとあたひざり。早馬打て孫  
權又救へ来る蜀の先陣張南へ馮習と議してやけえ。  
今呉の勢破れて氣を失ふ。どや大の時又のりて大々進  
敵の陣を踏破りて病の根をぬき尽さん。馮習曰孫桓  
叔日の戦ひを負く。ちく將士を討したりといへども舟手の  
大將朱然へ行の畔を陣と取。今も深入れて孫桓が陣を攻  
べ。朱然が舟手の勢を陸上勾く。まゝ回る路を塞ぐ。張南曰

大のより極く易い。閔真張苞等のく五千余騎を付て谷の内  
又伏かた。若朱然が勢。舟より上らべ両方よりはしそきんで討りよ  
し。吳班曰くその計と好とのへども志じ士卒を詔りて朱然が  
陣又降參させ。今夜蜀の勢をあ孫桓が陣を夜討えもると。告  
させあべ朱然うちもぞ火のあがるや見く未救へん。さのと兵  
せりのとあれど討ばれり。船を調ひ。馮習張南等を従  
ひ。行閔真張苞等の内に伏置士卒を命じて計を行ふ。  
さるちども朱然が番兵。蜀の士卒を生取舟を回く。あさめのぞ  
と向を士卒あえて曰く。もしホへま蜀の馮習が士卒あるが賞  
罰の明々あらざりよにて來降る願く一大事を告申とん。  
朱然が曰く。ひうすりみぞ。士卒告て曰く。今夜蜀の勢へ虚よ乗

て孫桓が陣と夜討ふ。火と付て焼んと。朱然とを  
信じてよくもあらせたりと。使とりて。そのより孫桓  
告知せり。と。閔真中途より兵と伏く。その使と斬棄たり。  
朱然が浩とともあらがて已。孫桓又告知せることべ定め。用  
心を。ともも陸よ上く。蜀の兵の回る路を立塞んと。らひけ  
ねば大將崔禹諫て曰く。士卒のやと輕く。信じて多  
一訴の計あらべ味方水陸よ上らん。朱然がよもと。一万の勢をさ  
げけ。と。崔禹卒又打向。おの夜馮習張南大軍と三千よ  
をきて。孫桓が陣又よせ四方より火とうけ。と。吳の勢大よ  
乱て。まんぐよ逃走る。崔禹の遙よ火の起と望と路を急て救

んとぞ。あよ忽然として。谷の内。鼓の音。天地と崩れ。左より  
関與右より張苞二手の勢。討て生きて。そしんで攻せよべ。崔  
禹まれば。あそとて。さう。退く。んとぞ。とた。張苞馬と飛り。  
路とまきり。只一合。生取そ回り。けよべ。その勢。あとぐく。射れ  
けり。朱然。おの由をきみて。ゆにて。外。周章。舟手の勢。と。五  
十里。退け。要害。陣を張て。救の来る。と侍居。とり。孫桓。陸の  
陣を焼。と。残少。討き。さしぐ。よ逃走。いへ。何よ足。と止ん  
と。向て。と。バ軍士。答て。曰く。おとす。北夷陵の城へ。猛の要害  
あり。孫桓。おとす。夷陵の城。入け。と。大軍。喊。と。作。と。  
追う。四方。と。囲んで。息。も。継ぎ。城。攻。と。り。関與。張苞。ひ  
崔禹。と。生取。そ。称。帰。と。回り。軍の様。と。奏。と。けよべ。帝。よ

喜び。崔禹。が首。と。を。休て。重く。諸軍。と。賞。と。く。よ。おとす。威風  
いふく。振。く。吳の。將士。と。あ。膽。と。冷。と。ふ。孫桓。朱然。おとす  
と。救。と。と。け。と。孫桓。色。と。失。ひ。文武の。臣。と。もの。や。と。い。う。せ  
ん。と。訴。商。と。張昭。と。白。く。今。諸大将。あく。世。と。辭。と。と。ヤ。せ。ど  
も。あ。四十。余。人の。大。將。あ。り。あ。ん。ぞ。蜀。の。勢。と。怕。え。き。韓當。と。  
將。と。周泰。と。副將。と。し。潘璋。と。先手。と。凌統。と。後備。と。甘  
寧。と。諸方。の。救。と。十。方。の。勢。と。起。と。拒。と。ら。り。孫權。と  
よ。従。ひ。即。時。よ。諸将。と。觸。け。る。が。甘寧。おのと。た。痢病。と。患。と。り  
ど。も。催促。殺度。よ。及。び。け。と。が。已。と。と。得。ぞ。と。打。起。け。り

